

第2学年国語科学習指導案

日 時 平成17年9月8日(木)6校時

場 所 教室(2年3組)・ひまわりホール

児 童 2年3組 男15名 女12名 計27名

指導者 高山 利之

- 1 単元名 友達に分かるように 話そう
教材名 「あったらいいな、こんなもの」

2 単元設定の理由

(1) 児童観

子ども達はこれまでに、「ともさんはどこかな」という単元で、知らせたいことを選び、事柄の順序を考えながら相手に分かるように話したり、大事なことを落とさないように相手の話を興味を持って聞いたりする学習をしてきた。

日常的な活動としては、帰りの会でのスピーチや毎日の家庭音読、図工作品の発表会をはじめ、各教科での発言、感想発表など意識的に機会を捉えて、話したり聞いたりする活動を行ってきた。

これらの学習や活動を通して、子ども達は相手に分かるように話すためには、話す内容を選びはっきり話すことが大切であることが分かってきた。また、大事なことを落とさずに聞くために、人の話を集中して最後まで聞こうという意識が育ってきている。

しかし、聞き手のことを十分に意識して、聞き手に分かりやすいように話す順序を工夫したり、話題に沿って友達と上手に話し合ったりする経験はまだ不十分であり、これからぜひつけていきたい力である。

事前テストの結果をみると、聞くことでは、相手に聞いた話が分かるために必要な事柄について質問ができていないことが分かった。また、話すことでは事柄を詳しく説明することが出来ていなかったり、文のつながりや順序が適切でなかったりする傾向が見られた。

(2) 教材観

本教材は、「あったらいいな」と思う道具を一人ひとりが自由に想像し、それをもとに話す内容や順序を二人で話し合っ決めて、発表するという教材である。あったらいいものについて、話す順序を考えながら、聞き手に分かりやすいように話し方を工夫して話す力や話題に沿って話す力を身につけることをねらいとしている。

よって、聞き手の立場に立って分かりやすい順序を考えるための指導を工夫したり、二人組で一つのものを作り上げていくための対話の仕方を指導することにより、話す順序を考えながら聞き手に分かるように話す力や話題に沿って話し合うといった力を身につけることができる。

以上のことから、児童に話す順序を考えながら聞き手に分かるように話す力や、話題に沿って話し合う力を育てるには、有効な教材であると考えられる。

(3) 指導観

話し言葉による表現活動への関心・意欲・態度を高め、指導と評価の一体化をはかり、本単元のねらいに迫るために、以下のことを指導の手立てとして位置づけた。

関心を喚起させるために

- ・ 導入で教師自身が考え出した道具を発表することによって、自分も「あったらいいな」と思う道具を考えたいという思いを持たせる。
- ・ 二人組で考え出した道具をクラスみんなで発表し合うことを知らせ、友達に「そんな道具があったらいいな」と思われる発表にしたいという目的意識・相手意識を持たせる。

意欲を持続させるために

- ・ 二人組での話し合いの仕方を理解させるために、話題に沿った話し合いをしているVTRを見せる。
- ・ 話す内容をまとめる際に、話しやすい順序を考えやすいようにカードを工夫する。
- ・ よりよい話し方を身につけさせるために、視聴覚機器を用いて自分たちの話し方を客観的に振り返らせる。
- ・ 4人グループでの練習の際には、活動ごとにめあてを決めて取り組ませることによって、一人ひとりが何に気をつけて練習すればいいのか、はっきりとしためあてを持って練習に臨ま

せる。

態度を育成させるために

- ・ お互いの発表のよいところを見つけて賞状を贈り合ったり，教師がよさを認めて褒めたりすることにより，達成感・成就感を持たせる。

指導と評価の一体化を図るために

- ・ 評価規準や振り返りカードをもとに計画的に個々を見取り，次の学習への手立てを明らかにし，指導する。

3 単元の指導目標

- ・ 話す順序を考えながら，聞き手に分かるように話すことができる。

4 単元の評価規準（B）

ア 国語への 関心・意 欲・態度	関心	「あったらいいな」と思う道具を考え出し発表し合うことに興味を持ち，楽しく発表会をしようとしている。
	意欲	話題に沿って進んで話し合いに参加しようとしたり，順序を意識して話そうとしたりしている。
	態度	お互いの発表のよいところを見つけ，感想にまとめようとしている。
イ 話す・聞 く能力	構成 要素	① 自分たちが考え出した道具について，クラスみんなに伝えたいことを考えている。
		② 聞き手に分かるように，話す順序を考えながら話している。
		③ 大事なことを落とさずに聞き，分からないことは質問している。
		④ 二人組で，話題に沿って話し合っている。
ウ言語についての知識・理解・技能		「あったらいいもの」の名前や理由がよく伝わるように，はっきり話している。

5 単元の指導計画（話す・聞く 15時間）

時間	主な学習活動	具体的評価規準(B)と【評価方法】	指導の手立て
一次	第1時 「ドラえもん」の道具について興味を持ち話し合う。	ア - 「あったらいいな」と思う道具を考え出し発表し合うことに興味を持ち，楽しく発表会をしようとしている。 【発言】 【アイデアメモの記述の把握】 【振り返りカードの把握】	・ドラえもんの道具を想起させ，楽しい雰囲気作りをする。 ・教師の道具を見せることで，発表したいという思いを持たせる。 ・便利な道具のアイデアをメモできるシートを用意し，自由に書かせる。 ・学習の計画を立てることで，発表会の目的意識・相手意識をしっかりと持たせる。
	第2時 「あったらいいな」と思うものをたくさん考える。		
	第3時 どんな発表会をするのか知り，学習の計画を立てる。		
二次	第4時 対話の仕方を学習する。	ア - 話題に沿って話し合いに参加しようとしている。 【話し合いの様子観察】 【振り返りカードの把握】	・「話し合い名人になろう」を活用し，話し合いで大事なことと目的を確かめる。 ・うまく話し合っている二人

	第5時	二人一組で、どんなものがあったらいいか話し合い、アイデアシートにまとめる。	イ - 二人組で話題に沿って話し合っている。 【話し合いの様子を観察】 【アイデアシートの記述の把握】 【振り返りカードの把握】	組のVTRを活用し、意欲を高める。 ・二人で話し合いながら、一枚のアイデアメモのシートを完成させる。
	第6時	話す内容を決め、短冊カードにまとめる。	イ - 自分たちが考え出した道具について、クラスみんなに伝えたいことを短冊カードに書いている。	・伝える内容を項目ごとに短冊カードに書かせる。
	第7時	発表に必要な資料を作る。	【短冊カードの記述の把握】 【話し合いの様子を観察】 【振り返りカードの把握】	・絵や模型を必要に応じて作らせる。
三次	第8時	話す順序について話し合い、話す内容を決める。	イ - 二人組で話題に沿って話し合っている。 【話し合いの様子を観察】 【短冊カードの並べ方の把握】 【振り返りカードの把握】	・「話し合い名人」を活用し、話し合いで大事なことを確認する。 ・話す順序を考えながら短冊カードの並べ方を吟味させる。
	第9時	二人組みで話し合っ て決めた順序を確かめ ながら練習する。	イ - 話す順序を意識し、間違えずに話している。 【練習の観察】【相互評価】 【振り返りカードの把握】	・「お話じょうず」を活用し、話し方と大事なことを確かめる。
	第10時	VTRに撮った自分 たちの発表を見たり聞 いたりして、練習する。	ウ - 大きな声で、はっきり口をあけて話している。 【練習の観察】【相互評価】 【振り返りカードの把握】	・VTRを撮ることによって練習に緊張感を与え、自分の話し方を振り返らせる。
	第11時	四人グループで交代 で発表の練習をする。 (本時)	【練習の観察】【相互評価】 【振り返りカードの把握】	・相互評価カードを用意し、お互いにアドバイスさせる。
四次	第12時	発表会の準備をする。 (司会の練習や話し方聞き方の確認など)	ア - 発表し合うことに興味を持ち、楽しく発表会をしようとしている。 【発言】【練習の観察】 【振り返りカードの把握】	・発表会の進め方を掲示し、練習させる。
	第13・14時	発表会を開き、よかったところを賞状に書く。	イ - 大事なことは落とさずに聞き、分からないことは質問している。 【発言】【発表会の様子を観察】 【振り返りカードの把握】	・CDを使って、発表後の質疑応答や感想交流の仕方を知らせる。 ・「聞きじょうず」を活用し、聞き方と大事なことを確かめる。
	第15時	賞状を贈り合い、発表会の感想をまとめる。	ウ - 大きな声で、はっきり口をあけて話している。 【相互評価】 【発表会の様子を観察】 【振り返りカードの把握】 ア - お互いの発表のよいところを見つけ、感想にまとめようとしている。 【感想の記述】【相互評価】 【振り返りカードの把握】	・相互評価できるシートを使い、メモしながら聞かせる。 ・友達のよいところを見つけ賞状を贈ることで、達成感・成就感を持たせる。

6 本時の指導

(1) ねらい

発表練習をとおして、話の順序に気をつけてはっきりと話すことができる。

(2) 展開

段階	学習内容と学習活動	・指導上の工夫と評価、＜教材・教具＞
導入 8分	<p>1. 今までの自分たちの練習を想起する。</p> <p>2. 学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> グループで聞き合って、もっとじょうずなはっぴょうにしよう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・目的意識：「その道具はいいなあ」と思われるような発表にする。 ・相手意識：クラスみんな 	<ul style="list-style-type: none"> ・二人組でどんなことに気をつけて練習したか想起しながら、どのグループも上手になってきたことを褒め、学級全体での発表会の前に隣のグループと聞き合って練習しようと投げかける。 ・発表の目的や相手を確認し、それらを意識して本時の活動を行うことができるようにする。
展開 32分	<p>3. 練習の手順を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習のめあて 等 <p>4. 二組が一緒（4～5人グループ）になり、発表する役と聞く役を交代しながら発表の練習をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> めあて・話の順序に気をつけて練習する。 </div> <p>1回終わったら評価とアドバイスをしてもらい2回目の練習に入る。アドバイスをしてもらったら交代する。（5分×2）</p> <p>5. 練習についてふり返り、めあてについて確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挙手による自己評価 <p>6. 2回目の練習をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> めあて・こえの大きさ ・目 ・やくわりぶんとんに気をつけて練習する。 </div> <p>1回終わったら評価とアドバイスをもらい2回目の練習に入る。アドバイスをもらったら交代する。（5分×2）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・よい話し方を確認し、練習する時のめあてをつかむ。 ・VTR を使って、発表の仕方や方法と の観点について確認する。 ・教室だけでは十分な活動ができないので、ひまわりホールを利用して広い活動場所を確保する。 ・自分達が考えた順番を意識させて話しを練習させる。 ・聞き手は「カード」を見ながら発表の仕方を確認し、アドバイスしてあげる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0; text-align: center;"> 評価イ - </div> <ul style="list-style-type: none"> ・VTR を使って、めあて の観点について確かめさせる。 ・ちょうどよい声の大きさ等で話をすると、話の内容がしっかり伝わることを実感させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0; text-align: center;"> 評価ウ - </div>
まとめ 5分	<p>7. 本時の学習を振り返る。</p> <p>8. 次時の学習内容を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の発表の仕方について自己評価させることで、練習の成果を確認し達成感を持たせる。 ・よいアドバイスを受けて伸びた児童を誉める。 ・練習で上手になったことを確認し、発表会への意欲を持たせる。

(3) 評価と手立て

【観点】	【具体の評価規準】	【評価に応じた支援】
イ -	<p>A 話の順序を意識して、資料等を効果的に使って間違えずに話している。</p> <p>B 話の順序を意識して、間違えずに話している。</p>	<p>A 優れた点を具体的に取り上げ、称賛する。</p> <p>C 話す順序を教師と一緒にカードを使って、もう一度確認してから話させる。</p>
ウ -	<p>A 相手を見て、ちょうどよい声の大きさで、はっきり口をあけて話している。</p> <p>B 大きな声で、はっきり口をあけて話している。</p>	<p>A 優れた点を具体的に取り上げ、称賛する。</p> <p>C モデルの話し方を見せ、じょうずな話し方に気づかせる。</p>

(4) 板書計画

あつたらいいな、こんなもの

グループで聞きあって、もっと
じょうずなはっぴょうにしよう。

お話しようず

- ・ 分かりやすいじゅんじよで
- ・ 考えたことをおとさず
- ・ ちょうどよいこえの大きさ、口の形
- ・ みんなの方を見て
- ・ きよう力し合って

れんしゅうのやり方

一回目・・・じゅんじよに気をつけて

グループが話す

グループが聞く・たしかめる・アドバイスする

交 たい

せきにもどる

二回目・・・こえの大きさ、目、やくわりに気をつけて

5 分間

5 分間